

# 家庭菜園

あなたもチャレンジ



園芸研究家 成松次郎

## サイシン 夏に強い中国野菜

図1 畑の準備



図2 種まき

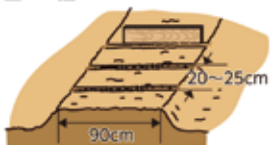


図3 間引き



①子葉の重なる所を間引く



②本葉2、3枚の頃 株間5cm間隔に間引く



③本葉5、6枚の頃 株間15~20cm間隔に間引く

図4 収穫



株元で切り取る

ナバナに似た中国野菜で、莖葉と花蕾を食べます。草丈30〜40cmと小型で暑さに強く、高温でもとうがよく立つので幅広い時期に栽培ができます。茎は柔らかく、黄色い花を付けます。ナバナと同様にさっとゆでておひたしや、油炒めにしていただきます。中間地では4月から9月まで種まきができ、夏まきでは40日程度、春と秋まきでは60日程度で収穫期となります。

【品種】 中国には収穫までの生育日数の短い早生品種から、生育日数の長い晩生品種までいろいろありますが、日本では早生系の品種が作られています。「早生系サイシン」「タキイ種苗」、「中国菜心」(サカタのタネ) などがありません。

【畑の準備】 あらかじめ土の酸性を改善するため、1平方m当たり苦土石灰100gをすき込んで耕しておきます。次に、種まきの1週間前に幅90cm程度の栽培床(ベッド)を作り、1平方m当たり化成肥料(NPK各成分12%程度100gと堆肥2kgを全面に施し、土と混ぜ、くわでベッドを平らにします(図1)。

【種まき】 ベッドに直角に条間20〜25cmの種まき溝を切ります。まき溝は木板を土に押し付け、溝を付けるのと深さが一定になります。じかまきとし、まき溝に2、3cm間隔に筋まきします(図2)。その後、べたがけ資材を使えば、乾燥や強い雨を防ぐと同時に害虫の予防にも有効です。

【間引き】 1回目は発芽後、子葉が重なる株を間引き、2回目は本葉2、3枚の頃に株間5cm程度、3回目は本葉5、6枚で株間15〜20cmに間引きます(図3)。

【追肥】 最後の間引き後に1平方m当たり化成肥料50g程度の追肥をし、軽く土寄せします。なお、畑が乾くときには、十分灌水(かんがい)します。

【病害虫の防除】 アブラムシには粘着くん液剤などの気門封鎖剤で防除します。アオムシ、コナガにはアフーム乳剤、トアロー水和剤CTなどを使います。なお、べたがけ資材を除いた後は、防虫ネットを被覆するのが良いでしょう。

【収穫】 とう立ち後、30cmくらいに伸び1、2花が咲き始めたから株元から切り取って収穫します(図4)。なお、下の葉を3、4枚残して切り取ると、脇芽から再び茎が伸びてくるので、さらに追肥して長い間収穫ができます。



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。  
※品種は情報提供として記載しておりますので、JAで取り扱えない品種もございます。

## 土づくり資材「田華の豊稲(粒状・砂状)」のお申し込みについて

JAレーク伊吹では生産者の所得向上に取り組んでおります。

令和6年産水稲資材『JAレーク伊吹土づくり資材申込書』では、肥料高騰に対する生産資材費の増加を考慮し、農家経営への影響を緩和するため「早期予約購買」を行っております。

期日内のお申し込みにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

